

愛の神様

いきなりですが、皆さんは神様ってどんな御方だと思いますか。このように聞けば、きっと色々な答えが皆さんの中から返って来ることでしょう。私はただ一言、神様って愛の御方だと思います。ではどんなところが愛の御方なのか、今日は聖書を読みながら皆で一緒に考えていきましょう。

さて、今日読んでもらった聖書箇所は旧約聖書のヨシュア記24:14～24です。私たちが普段礼拝で使っている「新共同訳聖書」という聖書では、このヨシュア記24章に「シケムの契約」と小見出しが打たれています。ヨシュアという人のもとでイスラエルの人々がシケムという所で、神様と契約って分かるかな、約束したことが書かれているのです。詳しく見ていきましょう。

みんなは出エジプトって分かるかな？昔々イスラエルの人々はエジプトで奴隷状態にされて、とても苦しい状況に置かれていたんだけど、これを見た神様はモーセという人を指導者に立てて、海を二つに割るという大きな奇跡も行ってイスラエルの人々をエジプトから脱出させたのです。エジプトを脱出したイスラエルの人々は40年間荒れ野をさまよいます。そして、とうとう神様が約束してくださったカナンと呼ばれる土地に入っていくのです。けれどもその時には、これまでずっとイスラエルの人々を導いてきたモーセさんは亡くなってしまっていました。モーセさんが亡くなった後は、ヨシュアさんがイスラエルの人々の指導者になります。そしてこのヨシュアさんに率いられて、イスラエルの人々はカナンという土地に入っていくんですね。

もともとカナンには様々な先住民がいました。イスラエルの人々はこれらの人々と戦って、カナンの土地を次々に占領していったんですね。そして占領した土地を自分たちで分けました。こうしてイスラエルの人々は安住の地を得たわけですが、それから長い年月が流れて、ヨシュアさんはすっかり老人になりました。ヨシュアさんはこれから自分が死ぬにあたって、神様が確かに自分たちに対する約束を果たしてくださ

ったことを宣言し、シケムにイスラエルの人々を集めて、他の神々に仕えないなど、モーゼさんが命じた律法という神様の掟を守ることをもう一度確認し、イスラエルの人々皆が一致して神様に仕えることを約束させます。これが「シケムの契約」です。

「主を捨てて、ほかの神々に仕えることなど、するはずがありません。」「わたしたちの神、主にわたしたちは仕え、その声に聞き従います。」このように約束したイスラエルの人々。けれども、今日の聖書個所の 19 節でヨシュアさんが、「あなたたちは主に仕えることができないであろう」と警告していたように、イスラエルの人々はその後、他の神様を神様としたりして、神様の掟を何度も何度も破ってしまいます。そのたびに神様に裁かれて、神様に立ち帰ってもまた罪に走って神様のもとからさ迷い出で行ってしまう。その繰り返し。

その人間の歴史に神様が終止符を打とうとされたのが、実はイエス様の出来事なんです。神様はどうとう御自分の愛する独り子イエス様をこの世に生まれさせ、彼を十字架につけてすべての人間の罪の贖いとし、私たちと仲直りしてくださり、私たちに永遠の命を与えてくださいました。そしてその愛で、私たちが変わるのを待っておられます。

今日の聖書個所でヨシュアさんは神様について、「この方は聖なる神であり、熱情の神であって、あなたたちの背きと罪をお赦しにならない……。もし、あなたたちが主を捨てて外国の神々に仕えるなら、あなたたちを幸せにした後でも、一転して災いをくだし、あなたたちを滅ぼし尽くされる」と語っていますが、神様はそういう応報思想で分かるかな？ 良いことをしていれば恵みを与えるけれども、悪いことをすれば罰を与えるという御自分の在り方を、イエス様を通して乗り越えてくださったのです。

良い子になれないその人も、神様はまず御自分のかけがえのない子どもとして愛してくださいます。罰で人間を変えようというのではなく、その愛で私たちが変わるのを待っていてくださいます。

また神様はイスラエルの人々だけでなく、すべての人々をイエス様の十字架の出来事を通して救ってくださいました。それは神様が狭い民族主義って分かるかな？イスラエルの人々だけを愛し、救うという狭い考え方を乗り越えられたということでもあります。イスラエルの人々がカナンに入っていくために、他の民族の人は殺されても、滅ぼされても良いというような、ある人々の救いのために他の人々はどうでもよいという考え方、ある人々は愛するけれども、他の人々は愛さないという考え方を乗り越えられたということでもあるのです。

実に、神様に愛されない人なんていません。神様の愛から漏れる人は一人もいません。神様は皆をそのまま愛してくださいます。たとえ良い子になれない私たちであっても、まず御自分の方から愛してくださいます。そして、その愛で私たちを変えてくださるのです。だから、神様は愛の御方なんですね。

この神様に従って、私たち、良い子になれないから神様に罰を受けるかもと恐れるのではなく、安心して、すべての人々を愛していきましょう。愛する人、愛さない人という区別を設けることなく、すべての人を愛していきましょう。私たちも愛の人として、皆で一緒に歩んでいきたいと願います。

祈りましょう。 ——以下、祈祷——